別紙

平成２１年度　森プロ事業実績：たにぐみ山づくりプロジェクト

（平成22年3月末現在）

		H19～20年度	H21年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		248	104	15	14%		595
作業道（m）		1,960	1,950	936	48%	緊急管理路	7,810
間伐等	面積（ha）	89	24	23	96%	利用＋切捨	196
	材積（m3）	1,432	1,220	311	25%		7,871(11,449)
備考		団地外実績（利用間伐　36ha　搬出材積　1,891m3　　作業路開設　1,900m）					

H21年度利用間伐等における所有者への還元額（補助金含む）（見込み）　2,750　円／m3

施業集約化の状況
　〇境界立会→測量→施業提案→現地説明会を行い施業集約化を実施。
　〇小規模所有の森林についても集約化に取り組む事が出来た。

施業プランの活用状況
　〇10箇所作成済み、施業提案に活用中。

施業プランナーの養成状況
　〇施業プランナー1名育成　（県研修）
　・担当者レベルでスキルアップはしたが、組織の体制が施業プランナーの研修内容を活かせる体制でない。

作業道の状況
　・急勾配の事業地での作業路開設を実施。（昨年は比較的平坦地が中心）地山勾配が緩いところでは、作業性を考慮して、広く開設し、作業ポイントとして利用した。
　・車輌系の作業システムを実施できる路網を配置。
　・土質が悪い現地は、土を入れ替えて対応。
　・豪雨後に昨年の開設路線を調査し、崩壊が無いことを確認。
　・狭い幅員で施工することで、比較的容易に山へ進入できるが、作業ポイントが必要。
　・ハーベスタによる支障木伐採で効率的に開設した路線有り。

作業システムの状況

・素材生産性　　平成19年度 2．4m3 / 人日
　　平成20年度 3．0m3 / 人日
　　平成21年度 3．9m3 / 人日

・ハーベスタによる林内侵入・直接伐採・造材により効率はアップしたが、林地保護も検討が必要。

ハーベスタで直接、伐採・造材により効率化

フォワーダ（3t）で小運搬
通常はグラップルで積み込み
時にはハーベスタにより積み

その他

・間伐コスト分析シートver.2を題材に研修会を開催（2009.5.20）
・揖斐農林事務所副所長視察（2009.6.10）
・林産事業地（関市）視察(2009.7.2)
・S字登坂路研修(2009.10.30)
・いび川の家視察研修(2009.11.19)

森プロの成果

・育林型事業体から、育林・林産型事業体へ実践の場が出来た。
・地域を集中して集約化し、ノウハウを蓄積する事が出来た。
・トラック道（基幹作業路）の必要性の機運が盛り上がった。
・高性能林業機械を活用した作業システム確立に取り組み、生産性が向上した。（車輌系システム）
・森プロを通じて、地域に期待感がわいてきた。山に対する興味がもどった。
・森プロを通じて森林組合と県(AG)が協力関係が強くなった。

今後の課題

①事業の効率的な推進と波及
・組合内の体制強化（担当各課の管理職が行程管理を的確に行う）→進捗速度の加速化
・集約化作業の人員確保（集約化作業に手間が掛か
　→揖斐森林資源活用センターとの協力体制に
・事業の進捗管理の徹底→毎週金曜日に各職員が進捗状況等の報告と優先事業の検討会の開催

②事業地・事業量の確保
・利用間伐地の確保（高齢級林）
・基幹作業道の開設（造林作業道等の計画・開設）　・町との連携
・地域の森林所有者の作業路開設への理解促進
③ビジョンの明確化による事業の標準化→各種基準作成
　＜計画・管理＞
　　・長期施業ビジョン、利用間伐適用、作業路開設方針、作業システム適用、補助金の適用
　　（集約化作業、施業提案の効率化、責任の明確化、作業指示の明確化等への対応）
　＜現地・技術＞
　　・林産作業標準、作業路開設マニュアル、選木基準
　　（選木技術の向上、雪害を考慮した間伐、残存木の傷を減少させる等への対応）
④いび森林資源活用センター協同組合との連携